

## ☆尾鷲市立輪内中学校区の取組

### ◆事業概要



#### 1 中学校区の現状と課題

地域では、過疎化や少子高齢化が急速に進み、密接であった地域のつながりが希薄になりつつある中、津波等の自然災害による不安を抱えながら生活する住民がいます。一方、公共の施設や子どもの学習意欲を喚起するような文化的施設が少なく、進学のために選択できる高校は限定的です。また、通学可能圏内に大学はありません。こうした中、様々な課題を抱える家庭があり、身近な大人からの愛情を実感できず、自尊心や学習に対する意欲が高まらない子ども達や将来に希望が見出せない子ども達がいます。

そこで、子ども支援ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）では、子ども達が、地域住民（高齢者等）との出会いを通じて深い知恵に触れ、生きるための工夫等を学んだり、地域の良さを見つめ直したり、主体的に進路を切り拓いていく力を身につけたりできる活動をめざしました。

#### 2 課題解決のための主な取組

##### (1) 夏の子ども学校

71回目を迎えた「夏の子ども学校」は、地域の保護者や住民が中心となり、小学校の子ども達の健康や豊かな成長を願って、数十年にわたり継続して取り組んできましたが、本年度はネットワークの活動に位置づけました。事前の活動では、地域住民が支援し、子ども達の筏（いかだ）づくりや、前夜祭用模擬店等の準備を一緒に行いました。前夜祭では、子ども・保護者・地域住民等が一緒になって、模擬店や体育館でのレクリエーション、ゲーム、盆踊り等を楽しみ、異世代間交流や親睦を深めました。また当日は、漁業体験や筏遊び、遠泳大会を行うことから、子ども達の安全確保や漁業の体験活動のために数艘の漁船等も準備したり、カレーライスや捕った魚を調理したりするなどして支援しました。

こうした活動の継続により、子ども達が、大人から見守られ、大切にされ、地域の一員であることを強く実感したり、大人の姿をモデルとして、自分や他者、地域を心から大切にできる実践力を身につけたりすることができます。



前夜祭の様子



筏遊びの様子

##### (2) 輪内中学校区人権フォーラム等への支援

本年度、人権フォーラム実施に向けて取り組む全中学生を支援するため、地域住民（14人）が講師となり、過去の戦争体験や地域に被害を及ぼした津波災害等についての話をしました。こうした聞き取り学習をもとにして、中学3年生では、人権フォーラムで上演する人権劇づくりに取り組みました。

そして、11月14日実施の輪内中学校区人権フォーラムにおいて、中学生が上演する人権劇を、3つの小学校の高学年の子ども達や子ども支援ネットワーク委員等を中心とする地域住民と一緒に鑑賞しました。鑑賞後は劇の感想や人権問題について、意見交換を行いました。

意見交換の場では、子ども達が地域に出て人権の問題や地域の歴史を熱心に学び、人権劇を通して発信したことについて、地域住民等から感謝されたり、ほめられたりする機会となりました。こうした経験により、子ども達は、人権や平和の問題を学ぶことの意義を再確認するとともに、表現することの大切さや楽しさに気づく場になりました。



聞き取り学習の様子

### ◆実践を振り返って

輪内中学校区の子ども達の中には、他者に対して、自分の思いや願いを語ることが苦手な子どもがいます。それは、地域の大人にも見られる特徴です。子どもの自尊心や学習意欲を高めるために、大人が子どもに声をかけ、ほめ、励まし、思いや願いを語る等、積極的な関わりができたことにネットワーク構築の大きな意義があったと言えます。今後、ネットワークの活動をさらに発展させながら、地域の実情を踏まえた、実効性のある取組を創造していきたいと考えています。